

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	大阪発達総合療育センターゆうなぎ園		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月8 日		～ 令和7年 2月14 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17 (回答者数)	12
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 8日		～ 令和7年 1月31 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者の方と一緒に来ていただくことによりお子様の強み、課題など保護者と職員で共有し支援できること	園でのお子様の様子だけでなく家庭や学校での様子等も丁寧に聞き取るように努めている。	お家で配慮してもらうこと、とりいれていただくことよい取り組みなどはできる限り具体的に提案することを心がけていく。
2	個別対応での支援もあることで学習面の評価やつまづきの要因など一人ひとりに沿った対応が可能である	標準化された評価を実施することに努め、お子さんの成長や課題を分かりやすくお伝えできるようにしています。	学校での学習、集団活動の中での困りごとなどを解決できるような日常の取り組みを提案できるように努めていく
3	集団活動の中でも個々のお子さんに合わせた対応が行え、それぞれのお子さんの特性や希望を加味して楽しい集団活動を計画実施できること。	聞こえの状態などを把握した中で集団活動を企画運営します。 お家ではとりくみにくい活動を中心に、希望も聞きながら様々な経験ができるように企画しています。	お子さまの活動の他に保護者の交流や勉強会などを充させていただきます。長期休みや土曜日の活動ではよりバラエティのある活動を提案していきたいと思ひます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	年齢に合わせたお子さん自身が自分の障がい特性の理解をすすめる課題へのとりくみ	児童発達支援の中でも年齢に合わせ補聴器の取り扱い、電池切れを伝えることなどセルフケアの取り組みを行ってきたが、学童期からの自分のきこえ、どんな風にサポートがいるのかを考える継続的プログラムに発展できていなかった。	個別や集団活動の中に年齢に応じて自分のきこえの理解をすすめたり、どのようにサポートしてもらいたいかなどを考える活動を取り入れて行きます
2	お子さんどうしのコミュニケーションの中で問題解決する活動が少なかった。	児童発達支援の中で培われた個々の特性を理解し、できる、伝わる体験を提供するという支援により、職員が学童期支援において「上手くいかない体験」も提供する、その中で問題解決するという支援の意識が十分とは言えなかったと思われる。	子どもどうして話し合っ決めて、色々な意見を言い合うなどの機会を意識的に作っていきます。 お子さん同士の交流をサポートできるように努めます。
3	活動は希望をとり、様々なものとなるように努め一定の好評をいただいているが、外出しての活動などまだ十分に答えられていないものがある。	児童発達支援業務との兼務、遠方からのご参加もあるため集団支援時間の設定が1時間45分程度が平均となっている。そのような関係から外出などの活動が少な目になっている。	希望を伺い、外出をともなう様々な活動など活動の幅を広げていけるよう努めます。